

平成31・令和元年度佐賀県立伊万里商業高等学校(伊万里実業高等学校商業キャンパスを含む) 学校評価計画

<p>1 学校教育目標</p> <p>生徒一人ひとりの『生きる力・生き抜く力』を育み、社会経済情勢の変化に十分に対応しうる、社会人・商業人としての資質(知識・技能)を身につけさせ、社会に貢献できる心身ともに健全な生徒の育成を目指す。</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>《知徳体の調和》をスローガンとして、10年後、20年後の生徒たちの姿を想像し、社会貢献ができる人間性豊かな生徒の育成を目指す。</p> <p>①集団生活の中で、相互に理解しあう心を醸成し協調性を高める。 ②基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現100%を目指す。 ③保護者や地域に対する情報公開を進め、連携を密にすることにより、地域の期待に応えうる、魅力と活気に満ちた学校づくりを努める。 ④部活動や資格取得において、目標に向かって努力し成し遂げることの充実感、成功体験を実感させることにより、将来に夢と希望を抱く生徒を育てる。 ⑤新しいものを創造するとともに、来るべき社会の構築に積極的に参画できる生徒を育成する。 ⑥校舎制による円滑な学校運営を行う。</p>
---	---

3 目標・評価

①集団生活の中で、相互に理解しあう心を醸成し協調性を高める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	スクールカウンセラーの活用	・カウンセラー事業を通して、生徒一人ひとりの心のケアを実施することにより、誰もが安心して生活を送れる学校環境を実現する。	・年間62時間のカウンセリングの時間を確保し実施する。また、それに付随するものとして、教育相談職員のカウンセリング技術・能力の向上を目指す。
		人権・同和教育の推進	・豊かな人権感覚を身につけた生徒育成のために、環境づくりや研修計画を立てる。 ・他を認め合い、差別を絶対に許さないという人権教育を行い、生徒一人ひとりの進路保障へつなげる。 ・職員・生徒向けの研修会を各学期に最低でも1回以上行う。 ・職員向けの研修会として、伊西地区の夏季研修会の参加率100%を目指す。	・各教科で人権感覚を養うような授業づくりを工夫する。 ・年間計画に位置づけて研修会を実施する。 ・夏期研修については、全職員参加を義務づける。
	●いじめ問題への対応	いじめを許さない体制作り	・「いじめは、どの生徒にも起こりうる問題である」という認識を持ちながら、生徒の安心・安全を図る。	・毎月一回実施している「いじめ」に関するアンケートにより、いじめ問題に対する意識の啓発を図る。 ・「いじめ」は、絶対に許されない行為であり、どの生徒にも起こりうる問題であるという職員間で認識を持ち、保健部や各学年等と連携を図りながら、情報交換を行う。
	○生徒指導	心身ともに健全な生徒の育成	・生徒一人ひとりが主体的に、規律やマナーを守り、他者を思いやり、心優しい生徒の育成を図る。	・防犯講話、交通講話等を実施し、規範意識を持ち、公共や他者のために自主的に行動できる人づくりを目指す。 ・SNS等での友人トラブルをなくすため、ネットマナーについて講話を行う。 ・各学年や関係部署と連携を図り、問題行動などの未然防止に努める。

②基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現100%を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	基礎学力向上	・年間計画に基づき、国語力、英語力向上のための小テストを実施する。 ・自宅学習時間を確保する指導を行う。 ・ICT機器を使った授業を推進する。	・年間計画に基づいた小テストの試験範囲を生徒に示す。 ・事前指導に力点を置き、事後指導を受ける生徒を極力減らす。 ・ICT機器を使い、より一層生徒に興味関心を持たせられる授業ができるよう研修の機会を設ける。
		読書活動の推進	・読書の習慣を身に付けさせる。 ・生徒一人当たりの貸し出し数を6冊以上にする。	・朝の読書タイム(15分)を前年度より5分延長する形で実施。情操教育の一端を担い加えて知識見分の向上に役立てる。 ・図書館だよりを毎月発行し、読書への動機付けとする。
	○進路実現に向けての各学年の取り組み	1学年 学年目標の設定 学校生活全般	・規律ある生活習慣の確立を目指す。 ・学力向上のため家庭学習の徹底と積極的な資格取得を目指す。 ・就業意識と進路意識の啓発を図る。	・毎日の学校生活の指導において、規律を意識させ、礼儀やマナー、遅刻・欠席等について適切な指導を行う。 ・家庭学習の定着のための指導を適宜行う。 ・授業に対して積極的に取り組むよう指導を行い、テスト等の事後指導も適宜行う。 ・大学訪問、企業訪問を実施し、時期に応じた進路情報の提供と指導を行う。
		2学年 学年目標の設定 学校生活全般	・規律ある生活習慣の確立と社会適応能力の向上を目指す。 ・学習活動をはじめとする学校生活全般の活性化を図る。 ・個に応じた進路指導を行い、明確な進路目標を持つ。	・日々の生活面の指導の中で、規律を内面化させ、特に挨拶、返事の徹底をはかる。 ・上位層には高いレベルの進路意識、下位層には諦めない心を持たせて学習に取り組ませる。 ・インターンシップへの取り組みを通じ、将来の人生ビジョンを明確にし、実践的な能力を養う。
		3学年 学年目標の設定 学校生活全般	・進路達成100%を実現する。 ・夢実現に向けて、ひたむきに努力し、最後まであきらめない生徒の育成に努める。 ・最高学年としての自覚を持ち、勉強・行事・部活動等に全力で取り組む。	・卒業後の社会人や上級学校での学生としての自覚を持てるような指導を工夫する。 ・クラスや学年全体の雰囲気作りを重視し、何事にも熱心に取り組めるような環境づくりをする。 ・進路指導・学習指導・面談を常時実施し、進路計画に基づき、主体的な学習習慣の確立を図る。

③保護者や地域に対する情報公開を進め、連携を密にすることにより、地域の期待に応えうる、魅力と活気に満ちた学校づくりに努める。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○地域・保護者との連携	地域への積極的な参加	・将来、伊万里を支える人材を地域と連携して育成する。 ・さがを誇りに思う教育推進事業を活用し、ふるさととの良さを生徒に実感させる。	・地域のボランティア活動へ積極的に参加する。 ・授業の中に地域との結びつきを取り入れ、自らの具体的目標を定め、年間を通して活動する。 ・地域商店街等と連携して販売実習を行う。
		PTA活動の充実	・PTA活動を通して、保護者と学校の連携を図る。 ・PTA総会出席率90%以上を目指す(2次総会含む)。	・PTA行事や各種会議に、積極的に参加していただくように努める。また、PTA新聞等で活動を紹介する。 ・PTA総会案内には再案内を出し参加を促すとともに、メールでも参加を呼びかける。 ・欠席者のための2次総会も計画する。
④部活動や資格取得において、目標に向かって努力し成し遂げることの充実感、成功体験を実感させることにより、将来に夢と希望を抱く生徒を育てる。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	部活動の活性化	・部活動を通して、人間形成を図るとともに、生徒の自己目標達成に向けての様々な指導の工夫を実践する。	・全員部活制の実施により、より多くの生徒に様々な経験の場を与える。 ・学習と部活動の両立を図りながら、部活動の実績を大いに評価し、達成感を味わわせる。
		資格取得指導	・全商簿記検定2級全員合格を目指す。 ・日商簿記2級10名以上合格を目指す。 ・ビジネス文書検定合格率80%以上を目指す。 ・珠算電卓検定合格率90%以上を目指す。 ・経済産業省ITパスポート合格者15名以上を目指す。	・時代が求める教科指導ができるように、まずは教師が個々のスキルアップに努め、指導力の向上を図る。資格取得の意義を明確に理解させ指導にあたる。 ・簿記会計科目のTTIによる指導、早朝や放課後の補習、長期休業中の特課・補習を実施する。 ・情報処理の高度資格取得に向けても年間指導として、早朝や放課後の補習、長期休業中の特課を充実させる。
	●健康・体づくり	健康管理	・日々の生徒の自己管理に努める。 ・感染症予防対策に努める。 ・食育の推進。	・生徒自身が健康について理解し、自己管理ができるように指導する。 ・流行性感染症の予防のための予防接種を受けることを勧める。 ・毎月の「伊商生お弁当の日」を実施することにより、「食」を通して、健康や身体、調理技術を学び、家族と触れ合う機会を増やす。
		体力の向上	・体育理論や保健の授業を通して、トレーニング等によって体力を高めることの意義について理解させる。	・毎時間、授業前のランニング(体育館5周or駅伝コース1周)を徹底させる。さらに、種目にあったトレーニング(2種類)を意識して行わせる。 ・健康・安全に留意しながら、体力の向上を目指す生徒を育成する。
⑤新しいものを創造するとともに、来るべき社会の構築に積極的に参画できる生徒を育成する。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○実社会に対応できる人づくり	インターンシップの推進	・インターンシップを通して、キャリア教育を実践的に学ぶ力を養う。 ・自分の特性を考え、将来の進路について自ら課題を設定し、解決する能力を養う。 ・「働く」ということについて様々な角度から意識を高める。	・外部講師による事前指導(講話・実技指導) ・セルフプロデュースでの実施 ・就職希望者による伊万里管内の企業での実施 ・事後指導としてのインターンシップ発表会の実施
		職業観・勤労観の醸成	・商業教育を通して得た知識や技能を元に職業観の育成を図る。 ・校外での諸活動を生かした勤労観の育成を図る。 ・外部講師の講演やインターンシップを通して、職業観や勤労観を深める。 ・校内における進路行事を実施し、進路意識の高揚を目指す。	・外部講師によるインターンシップ事前指導(2年:6月) ・進路講演会(1・2年:7月) ・インターンシップ(2年:8月) ・進路啓発研修(企業・上級学校見学)(1年:10月) ・進路報告会(1・2年:12月) ・校内進路ガイダンス(1・2年:2月)
⑥校舎制による円滑な学校運営を行う。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○校舎制に係る学校運営	授業の円滑な実施	両校舎を移動して行う授業では、出欠管理、成績管理など連携を取りながら行う。	・フードビジネス科については、両校舎に正副担任を配置し適宜連絡を取りながら生徒管理や成績管理を行う。
		学校行事の円滑な実施運営	一体感の醸成ができるような行事内容に取り組む。	・両キャンパスの管理職間の打ち合わせは月2回以上の実施(ICT機器利用も含む)及び担当者同士の打ち合わせを密に行い、学校全体としての取組となるようにする。
		部活動の円滑な実施運営	両校舎にある部活動が一体となって活動できることを目指す。	・可能な限り活動場所や指導体制を統一し、一体感のある練習ができるようにする。
		校務分掌の円滑な実施運営	両キャンパスの分掌ごとに同じ業務ができるように連携を密に取る。	・分掌内の業務分野は両キャンパスで可能な限り統一し、2度手間にならないように電話やPCを用いて連絡を密にとって業務に当たる。
		校舎間移動の円滑な実施運営	スクールバスの利用や直接現地集合など適宜最良の方法で行う。	・フードビジネス科は曜日固定して終日一方のキャンパスで学校生活ができるように時間割を組む。 ・全校生徒の校舎間の移動に関しては、スクールバスを活用する。 ・部活動の練習場所等の移動に関しては、生徒の安全面を第一に考え、スクールバスを積極的に利用させる。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務改善のための工夫と働き方改革推進	・月平均80時間超の教職員数を昨年度同月よりも削減を目指す。 ・各月の時間外平均時間を昨年度同月よりも10%削減を目指す。	・各分掌は、削減目標を数値化し実行する。 ・定時を過ぎるような会議設定等は行わない。 ・学校閉庁日を4日間設定し、この間は部活動等は原則行わないこととする。 ・週休日の試合等の引率は出張扱いとし、振替休日の取得を可能な限り行う。